

# くまもとアートポリス推進賞 20回記念シンポジウム

2月11日(水)  
於:県庁地下大会議室

くまもとアートポリス推進賞は、デザイン面や機能面で特に優れており、地域の活性化やまちづくりに資する県内の建築物を平成7年度から表彰している。第1回から今回の第20回までに134施設の魅力ある建築物を表彰してきた。

今年度、20回目を迎えたことを記念して「くまもとアートポリス推進賞20回記念シンポジウム」を開催した。第1部の「第20回KAP推進賞表彰式」では、推進賞5施設、推進賞選賞3施設の建築主・設計者・施工者を表彰した。受賞者からは、建物が完成するまでに積み重ねた互いの信頼関係やすばらしい建物を造ることができた喜びの声を聞くことができた。また、第2部のパネルディスカッション「くまもとの建築(まち)に思うこと」では、KAP推進賞の役割や熊本で求められる建築について語り合った。



くまもとアートポリス推進賞受賞者



くまもとアートポリス推進賞選賞受賞者

## パネルディスカッション 『くまもとの建築(まち)に思うこと』



(左)福島正継氏 (右)小山英文氏

### パネリスト

- 青木 淳 建築家、KAP推進賞選考委員  
(一社)熊本県優良住宅協会会員、  
新産住拓(株)代表取締役社長
- 小山 英文 建築家、KAP推進賞選考委員  
(一社)熊本県建築士事務所協会会長、  
(株)太宏設計事務所代表取締役社長
- 塚本 由晴
- 福島 正継

### コーディネーター

桂 英昭 くまもとアートポリスアドバイザー



(左)青木淳氏 (右)塚本由晴氏

「熊本の『まち』を考えたとき、アートポリスプロジェクトは点のような存在である。『まち』を構成するアートポリスプロジェクト以外の99%の『建築』を含めて、熊本の『まち』のことを、みんなで語り合いたい。」という、コーディネーターの桂氏からパネリストや来場者への投げかけによりスタートした。

平成22年度から推進賞選考委員を務める青木氏や塚本氏は「熊本には、一つの敷地に親子の各世帯の住宅が共存し、建物単体だけでなく、敷地全体で過去・現在・未来が受け継がれているものがある。」「無意識のうちに垣間見える熊本らしさを意識的に蓄積することが、熊本らしいまち並みにつながっていく。」「地産地消によって生まれる“連担のネットワーク”の質を高めることで建築・まち並みの価値が高まる。熊本だからできること。」といった、熊本の外から見える熊本の『まち』を語った。

それに対し、熊本で建築に携わる小山氏や福島氏は「一定のエリア単位で『まち並みルール』を作る取り組みを行っている。例えば、県産材を使った木製カーポートに統一することで、そのエリアの価値を高めるとともに、地産地消を根付かせる工夫をしている。」「夏の強い日差しへの対策として庇を伸ばすなど、熊本の気候風土を考慮した建物づくりが重要である。」といったように、熊本の建築(まち)づくりに懸ける思いが語られた。

歴史的背景や地域性を意識し、また、熊本の豊富な資源を活用した地産地消による建築(まち)づくりの重要性や、人と人とのつながりの大切さを再認識させられるパネルディスカッションとなった。



西嶋 公一氏 大野 郁子氏

会場にいたKAP推進賞選考委員の大野氏や西嶋氏からもKAP推進賞の役割などについてコメントいただいた。

## 第20回 くまもとアートポリス推進賞

### 推進賞

#### 沼山津の家 [熊本市]



地域の風土・まちなみ(沼山津神社、横井小楠の塾などがある周辺のもの)を意識して設計を行った。これからも「熊本らしさ」を意識して設計をしていきたい。(設計者)

#### House F, nagamine [熊本市]



構造設計の仕事をしているが、今回自宅をつくるなかで改めて家づくりの大変さを実感した。お客さんの家に携わる際にも、この経験を忘れないようにしたい。(建築主)

#### 湯浦温泉センター [芦北町]



コンクリートに畳表の素材感を出していただくなど、施工者の皆様に、設計図にはない愛のある工事をしていただいた。この地区のシンボルとなつてほしいと願っている。(設計者)

#### MA-HOUSE [八代市]



Photo/笹井マサフミ

たくさんの打合せのなかで、言葉の端々からどういったことを望んでいるのかを設計者に汲み取っていただき、良い家ができたと考えている。(建築主)

#### 供養普請の家 (佐藤忠商店) [山鹿市]

先代の遺志を継ぎながら、実際に住み続けていくためにどうすればよいか悩んでいたが、設計者にアドバイスをいただき、大変良いものができたと感じている。(建築主)



Photo/永石 英彦

### 推進賞選賞

#### 古代の風黒の蔵 [多良木町] (多良木町埋蔵文化財等センター)



昭和初期に建てられた食糧保存庫を石壁を残したまま、改修するというのに苦労した。(設計者)

#### 熊本市西区役所 [熊本市]



環境や構造はもちろん、素材が活かされるような設計を心がけた。区民の皆さんに愛されるような建築になることを願っている。(設計者)

#### 旅館 心乃間間 [南阿蘇村]



旅館は阿蘇の山々を見渡せる絶景のポイントにある。ぜひ、皆さんにご利用いただきたい。(設計者)

## PROJECT 進行プロジェクト

### ■ 高野病院

日本一の大腸肛門専門病院を目指し、地域医療に貢献されてきた高野病院。移転に向けて平成25年8月から、KAP初の病院プロジェクトとして、共同建築設計事務所(東京都)+コンテンポラリーズ(神奈川県)により設計が進められている。

基本設計を終えた2月18日、職員向けの設計説明会が開催された。仕事を終えた100人近いスタッフが集まり、活発に意見交換が行われた。患者様が第一に、そして各部署、各部門のスタッフが気持ちよく働けるようにと話し合いながら、実施設計が進行中。

山田理事長からは、「絶対いいものを作って、アートポリスに参加してよかったという結果を残したい。」と力強いお言葉をいただいた。



職員に説明する設計者  
(左)共同建築設計事務所 川島氏 (右)コンテンポラリーズ 柳澤氏



模型を興味深く見る病院スタッフ



高野病院 基本設計イメージ模型

## EDUCATION 市民大学

### ■ 秋の見学バスツアー

9月28日に開催した東北のアートポリス参加施設を中心に巡るツアーの参加者は10代から80代までの約40名。熊本駅周辺整備からスタートし、三加和小中学校、装飾古墳館を見学、最後は菊池市街地ポケットパークの足湯で1日の疲れを癒した。

三加和小中学校では、設計者であるUL設計室の柴田氏と東大森時空間設計室の東大森氏から熊本の強い日差しに対応した深い庇で落ち着いた明るさの教室を計画したことや太陽熱集熱換気システムのしくみなどについて説明があった。

参加者からは、「設計者から直接話を聞くことが出来てよかった」「普段は見られない学校の中まで見ることが出来てよかった」「熊本に住んでいながらこういったプロジェクトが行われていることをはじめて知った」「ほかのアートポリスの建物も見たい」との感想があった。



県立装飾古墳館



熊本南警察署熊本駅前交番



和和水町立三加和小中学校



菊池市街地ポケットパーク(足湯に浸かる参加者たち)

## くまもとアートポリス海外巡回展

2003年から10年以上にわたってくまもとアートポリスの活動を海外へ紹介してきた国際交流基金主催の「くまもとアートポリス海外巡回展」は、今年度をもって終了することとなった。今年度は、トルクメニスタン、ルーマニア、サウジアラビアの3か国で開催され、これまでに42か国72都市で紹介された。

世界各地から高い関心を集め、「自分たちの国でもこうした独創的で興味深い建築技術を教えてほしい」「日本の建築・文化に感銘を受け、もっと知りたくなった」等多くの反響があった。

### 海外巡回展を開催した国々

- ブラジル ●米国 ●アルゼンチン ●ボリビア ●ニカラグア ●ホンジュラス ●コスタリカ ●カナダ ●ベネズエラ ●マレーシア ●モンゴル
- ネパール ●ベトナム ●韓国 ●インド ●ニュージーランド ●オーストラリア ●スリランカ ●トルコ ●イエメン ●ポルトガル ●リトアニア
- ロシア ●レバノン ●チュニジア ●イタリア ●ドイツ ●インドネシア ●ブルキナファソ ●ギニア ●モロッコ ●中国 ●ラオス ●シンガポール
- トンガ ●マケドニア ●ヨルダン ●アイルランド ●ボスニアヘルツェゴビナ ●トルクメニスタン ●ルーマニア ●サウジアラビア ※開催順

※国際交流基金は、文化交流の促進を通じて、日本と諸外国との相互理解を深めるため1972年に外務省所管の特殊法人として設立された。(現在は独立行政法人)

## 日本・サウジアラビア外交関係樹立60周年記念イベント

1月21日~2月19日

海外巡回展の最後を締めくくったのは、日本・サウジアラビア国交関係樹立60周年記念イベント。首都リヤドにある国立博物館や国内の大学で「くまもとアートポリス展」が行われた。KAPアドバイザーの曾我部 昌史氏が現地へ赴き、国立博物館でのオープニングレセプションで各国大使や外交官らにアートポリスについて説明したり、リヤドのダーム・アム・ウルム大学で教授や現地の建築家に向けた講演や意見交換を行ったりした。パネル展示や講演は好評で、もっと日本の建築について学びたいとの声がかかれた。国際交流基金による巡回展は約2週間で終了したが、サウジアラビア遺跡観光庁の要望により、引き続き「くまもとアートポリス展」が国内の大学を巡ることとなった。



国立博物館でプロジェクトについて説明をする曾我部氏



展示会場の様子(サウジアラビア・リヤド)

## 第14回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 6月7日~11月23日



監督:石山友美 ※この作品は「だれも知らない建築のはなし」というタイトルで劇場公開予定(東京・5月)



イタリアで開催された「第14回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」の日本館で、アートポリスの取組みが紹介された。

「ヴェネチア・ビエンナーレ」はイタリアの島都市ヴェネチア(ベニス)の市内各所を会場とする芸術のオリンピック。建築部門の展示会は1975年に始まった。

## こども建築塾

子どもたちに建築の楽しさを知ってもらうため、3月22日に山都町の清和文楽館で、こども建築塾を開催し、小中学生とその保護者18名が参加した。

清和文楽館では、地域で受け継がれてきた伝統芸能の体験として、文楽を鑑賞したり、人形の仕組みを学んだりした。女性の人形の顔が鬼に変わる度に、子どもたちからは驚きの声があがった。

文楽館や資料館を見学した後、木造建築の設計や施工を手掛けられている建築士の方から釘や金物を使わない伝統木造建築の仕口や継手の説明を受け、模型やいろいろな樹種の木材に触れて木造建築の魅力を教えてもらった。

子どもたちからは「普段、木材に触れる機会がないので楽しかった」「木材の模型を組立てたり分解するのは難しかった」「将来は建築デザイナーになりたいので、いろいろな体験できてよかった」という声が聞かれた。



## KAP・UD出前講座の開催!

昨年4月に開校したKAP参加プロジェクトである和水町立三加和小中学校の小学6年生を対象に、出前講座を2月12日に開催した。KAPの施設について学んだり、プロジェクトマップで学校の位置や見たことがある施設を確認したりした。その後、ユニバーサルデザインについて学ぶため、校内で高齢者疑似装具や車いすの体験を行った。



プロジェクトマップで学校の場所を確認する児童たち



高齢者疑似体験



車いす体験

身体が重くていつもより階段の上り下りが大変

車いすから移動するのが難しい

## 第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム

「第3回国連防災世界会議」(3/14~18)が宮城県仙台市で開催された。パブリックフォーラムの一つとして15~16日には、NPO法人「HOME-FOR-ALL」と仙台市宮城野区主催で、東北各地の「みんなの家」について考える「震災とコミュニティと建築」シンポジウム(会場:せんだいメディアテーク)と「みんなの家」を設計者と一緒に巡る見学ツアーがあった。シンポジウムには、KAPアドバイザーもパネリストとして出演し、「みんなの家」が果たしてきた役割をたどりながら、コミュニティのあり方や建築の関わり方を考えさせるシンポジウムとなった。

- 「みんなの家」は「つくる人」「使う人」「欲している人」が一体になってつくった建築で、みんな同じ気持ちで喜んだ。これが公共建築の原点だと感じた。
- 専門家(建築家)の役割は、使う人の意見をすくいあげ、ハード、ソフトの両面から「おいしく料理する」こと。
- 「みんなの家」は「震災のため」ではなく、「隣人・地域のひととの気軽なコミュニケーションの場、集まる場」としてどこにでもあべき存在。
- 「建築をつくる」ことは人間の本能。建築が産業化したことで建築とコミュニティが切り離されてしまったが、「みんなで作る」ことがまちの幸に繋がる。



会場では「みんなの家」やアートポリスのパネル展示もあった。



パネリスト(左から)  
妹島和世(妹島和世建築設計事務所 アストリッド クライン (クライン ダイサム アーキテクト))  
桂英昭(くまもとアートポリスアドバイザー)  
小山修(東松島市教育委員会 教育次長)  
コーディネーター  
小野田泰明(東北大学大学院教授)



宮戸島月浜の「みんなの家」



漁業の網を繕ったり、子供の遠足の休憩所になったり、住民が浜を見に来たり使い方はさまざま。念願の「みんなの家」ができた。



仙台市宮城野区「みんなの家」

「みんなの家」で待っていると、帰ってきた人が自然に集まってきて宴会が始まる。つらい思いをしたけれど、「みんなの家」のおかげで楽しい時間も過ごせた。

宮城県内5つの「みんなの家」を巡った。「みんなの家」がどんなに大切な存在か、どんなに元気をもらっているか、地域の方が熱く語ってくれた。

## 阿蘇みんなの家

平成24年7月の熊本広域大水害から2年が経ち、仮設住宅の入居者の方々も自立再建に向けて徐々に退去され始めた。それに伴い、仮設住宅は集約され、基礎を改修することにより再建支援住宅として継続利用されることになった。仮設住宅に入居されていた地元の方々などから、「みんなの家」を引き続き利用したいとの声をいただき、災害の創造的復興のシンボルとして移設されることになった。今後は、場所を変えて、地域住民の憩いの場として利用されることとなる。



このような取組みは、全国的にも例を見ないものであり、被災者支援のあり方として、一つのモデルケースとなり得る取組みだ。

- (上) 高田住宅 「みんなの家」
- (右) 池尻・東池尻住宅 「みんなの家」



## KAP情報

参加プロジェクト 90件(竣工81件)

- 受賞
- 宇土市立宇土小学校 2013年度日本建築家協会賞
  - 和水町立三加和小中学校 第20回木材利用大型施設コンクール(熊本県賞)
  - 熊本県立球磨工業高校管理棟 2014年(第9回)日本構造デザイン賞 第5回木質建築空間デザインコンテスト一般建築部門賞

### 続報 牛深ハイヤ大橋補修

1997年に竣工した「牛深ハイヤ大橋」(設計/レンゾ・ピアノ+ピーター・ライス+岡部憲明+マエダ)は、調査により耐震改修の必要が無いと判断された。今後は長寿命化とライフサイクルコスト抑制のため、損傷箇所を調査し補修設計が行われる。



photo/石丸捷一

### フェイスブックページ開設・ホームページアドレス変更のお知らせ

■くまもとアートポリスフェイスブックページを開設しました。プロジェクトに関する情報、イベント情報などを掲載しています。  
<https://www.facebook.com/kumamotoartpolis>



■くまもとアートポリスホームページのアドレスが変わりました。  
[http://www.pref.kumamoto.jp/hpkij/pub/List.aspx?c\\_id=3&class\\_set\\_id=1&class\\_id=1169](http://www.pref.kumamoto.jp/hpkij/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1169)